

# くすのき



樟蔭学園報 Vol.159

大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

私たちの歴史  
SHOIN点描



## 学園創設時を偲ばせる唯一の木造建造物

昭和30年代後半からの校舎の中層化と鉄筋化により、昭和40年代前半にはほとんどの校舎が木造から鉄筋コンクリート製へと姿を変えていきました。しかし、在学生や卒業生の旧校舎への愛着は深く、それが過ごした思い出の校舎の姿を残していくたいという思いが次第に強くなってまいりました。これを受け、昭和44(1969)年、学園の創立五十周年事業の一環として、創立当初はそれぞれ「洗濯教室」と「試食室」として使われていた二つの建物を西体育館(現大学体育館)隣へ移築し、「樟古館」と命名し保存されることになりました。この樟古館は、学園の始まりである樟蔭高等女学校が開学した大正7(1918)年に建てられたもので、開学当時に建設された校舎の中で唯一現存する建物です。大正時代の学校建築物で現存している貴重な建物として、平成19年には本学で3件目の国の登録有形文化財として登録され、現在でも教室やクラブ活動の場として活用されています。

移築時に樟古館前に植えられた桜の木は、屋根よりも高く成長し、春には新入生の入学を祝うかのように枝いっぱいの花を咲かせ、樟古館との美しい風景を作り出しています。

## 1969 樟古館の移築



文化勲章を受章された田辺聖子さん(昭和22年卒業生)



題字: 大学 宮崎彩夫教授(日展会員/雅号・葵光)

2009 新年のごあいさつ ..... 1

NEWS ●田辺聖子さん文化勲章受章 ..... 10

レポート ●公開講座[ささやかですが、大切なこと] 石村由起子 ..... 3

SHOIN LABO ●[古典を楽しく学ぶための絵かるた] 北村英子 ..... 5

こもれびの窓 ●大阪市立愛珠幼稚園園長松村紀代子 ..... 7

CLUB NAVI ●中学ワンダーフォーゲル部 ..... 9

はぐくむ心 ●高校教頭高木秀真 ..... 9

INFORMATION ●参加イベントのお知らせ ..... 14

we are Now ●各校行事など ..... 15

SHOIN点描 ●1969年樟古館の移築 ..... 19

## 新年のごあいさつ



学校法人 樟蔭学園  
理事長 森 真太郎

新年あけましておめでとうございます。皆様健やかに新しい年をお迎えになられたことと存じます。

昨年の秋、学園にとってうれしい大きなニュースが届きました。本学卒業生である田辺聖子さんが文化勲章を受章されるという偉業を成し遂げられたのです。太平洋戦争末期から終戦直後にかけての困難な時代のなか、樟蔭で大好きな国文学を学び社会へと巣立っていった田辺聖子さんが、作家としての成功を認められ、最高の栄誉である文化勲章を受章されたことは、学園に携わる全ての人々にとって誇りとなるものです。このような偉大な先輩のご活躍を見るにあたり、私ども学園教職員一同も、より一層教育への情熱を燃やし、改めて社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいく決意をいたしました。

田辺聖子さんのこの度の受章を心よりお祝い申し上げますとともに、今後なお一層のご活躍をお祈り申し上げております。

また、このような明るいニュースがあった反面、私立学校にとって厳しいニュースも出でています。昨年のアメリカでのサブプライムショックを発端とした世界同時不況は深刻な様相を呈してきており、我が国の経済状況にも厳しい現実が立ちはだかっています。不景気による受験生の国公立志向の強まりといった影響だけでなく、大阪府の財政再建に伴う私学助成の縮小や少子化による入学者減少など、本学のような私立学校にとって厳しい局面を迎えつつあります。この厳しい局面を乗り越えるためには、学園教職員一同が力を合わせ、より魅力的な学園づくりを推進していくことが大切であるとともに、学園関係者の皆様からの温かいご支援が必要不可欠なものとなってまいります。

数々の偉大な先輩を輩出し、90年以上の伝統を持つこの素晴らしい学園を次世代へと受け継ぎ、創立者森平蔵が志した理想の女子教育を守り続けるために、私どもは一層の努力を重ねて参ります。学園関係者の皆様におかれましては、引き続きさまざまな方面からご支援をいただき、学園を温かく見守り続けてくださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が学園にとってさらなる発展の一年となりますことを願いますとともに、皆様にとりましても健康で幸多き一年となりますことをお祈り申し上げます。

## 更なる大学改革の一年に

大阪樟蔭女子大学  
大阪樟蔭女子大学短期大学部 学長 森田 洋司



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、幸多き新春を迎えたこととお喜び申し上げます。

さて、大阪樟蔭女子大学は今年の4月から新たに心理学部と児童学部を開設いたします。これは、従来の学科をそれぞれ学部として発展させたもので、これまで以上に専門性を深化させた学びを実現していきます。また、短期大学部の人間関係科はキャリアデザイン学科へと改組され、より実践的な力が身につく学びを提供します。

このように、大学はその姿を大きく変化させています。しかし、「社会で活躍する女性を育成する」という樟蔭の本質はいつの時代も変わりません。そして今、樟蔭は更に一步を踏み込み、時代や社会の変化に柔軟に対応できる「総合的人間力（ジェネリックスキル）」を身につける教育プログラムを取り組んでいます。「課題解決能力」や「知識を活用する能力」を鍛え、時代が変わっても柔軟に自分自身を進化させ、どんな環境の下でも活躍できる女性の育成を目指しています。

昨年には、本学の卒業生である田辺聖子さんが文化勲章を受章されました。まさに、樟蔭が目指す女性像のお手本ともいべき偉大な先輩のご活躍胸に、女性が持つ可能性を切り拓く教育の大切さを改めて感じました。今年もさまざまな改革に奔走する大きな一年になることでしょう。皆様には、樟蔭が目指す方向をご理解いただき、引き続き厚いご支援を頂戴できますよう、心よりお願い申し上げます。

## みんなが集う喜びの場所として

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 園長 塩見 慎朗



皆様には、お健やかに新しい年をお迎えになられていることでしょう。現代、幼稚園は子育て相談・子育て支援の拠点として、地域における「幼児期の教育センター」としての役割を担うことが求められています。附属幼稚園では、子育て支援として「未就園児保育」と「園庭開放」を行っています。「未就園児保育」は現在3クラスあります。また昨年より「園庭開放」を毎月1回土曜日に行っています。子どもが喜んで遊ぶ施設を体験できるとあって、大変好評で、毎月1週間で予約がいっぱいになります。哲学者のラッセルは「子ども時代の幸福は、もっとも優れたタイプの人間形成にとって絶対に必要である」と述べておますが、子どもは親の愛情に包まれ、祖父母に可愛がられ、先生や地域の人に励まして立派に育ちます。

子育ては確かに苦労も多いですが、親につきまとう幼稚園児の頃が、もっとも楽しい時期なのです。幼稚園では運動会・親子まつり・お楽しみ会・講演会など、毎月いろいろな行事が行われています。そのような行事に保護者をはじめ、祖父母や地域の人が集い、園児を中心にしての喜びの場所となることを願っています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 「進路保障」を確かなものに

樟蔭高等学校 校長 森 真太郎  
樟蔭中学校



昨年より樟蔭中学校では「選抜特進」と「特進」の新コース制と、高等学校卒業までの完全6年一貫制を導入いたしました。

現在の私立学校に求められている「進路保障」を確かなものにするべく、これまで以上に学力の向上を図ると共に、あいさつ・マナーといった正しい生活習慣を身につけることにも重点を置き、生徒への惜しみない指導を行っています。

また、生徒の「やる気」を伸ばすことを意識し、何事にも自主的に取り組む姿勢を養うための指導を実践しています。こうした担任団の手厚いサポートによって、その結果は生徒の行動や模擬テストの結果にも着実に表れており、その効果には十分な手応えを感じています。加えて、高等学校においては「進学講座」等を開講し、大阪樟蔭女子大学との連携を一層深めていく一方で、外部大学への進学を希望する生徒に対しては、放課後補習の実施や夜8時までの自習室開放などを始めとした、きめ細やかな進学指導を実践することにより、それぞれが希望する進路を実現できるように、教員が一丸となって生徒を支援しています。

中学校・高等学校では、このようなさまざまな取り組みを通して、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた女性を育成し、その進路を支援していきたいと考えています。

これらの取り組みが実を結び、これまで以上に素晴らしい学校になることを願っております。本年も皆様からのご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 新春を迎えて

樟蔭同窓会 会長 綱野 康子



明けましておめでとうございます。  
新しい年を皆様ご家族お揃いでお健やかにお迎えになられたことお慶び申し上げます。  
平素は同窓会活動にご支援ご協力を賜り、有難く厚くお礼申し上げます。お蔭様で役員皆様方のご尽力のもと順調に進めさせて頂いております。

さて、皆様方もすでに新聞紙上でご高覧の通り、昨年11月3日に私たちの先輩でいらっしゃいます文豪、田辺聖子先生が栄える文化勲章されましたことは、学園はもとより私達同窓生にとりましても、この上もない慶びであり誇りでございます。田辺聖子先生おめでとうございます。同窓生一同お祝い申し上げます。今後のさらなるご活躍お祈り申し上げます。

昨今、母校に対する思いが薄れゆく様に思われる中で、毎年東京支部同窓会総会、岡山での「樟蔭のつどい」、そして学園での「樟蔭ホームカミングデー」に出席させて頂きますが、年々ご参加下さる卒業生が多くなり、歴史と伝統ある樟蔭学園への思いが深まっているように思われます。同窓会と致しましても卒業生の方々への輪を広め、少しでも母校のお役にたてるよう役員一同頑張って参りたいと思っております。皆様のご支援をお願い申し上げます。

結びに樟蔭学園の益々のご発展と、皆様にとって良きお年でありますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。



# 石村由起子

お客様が喜び、生産者が喜び、そしてお店も喜ぶ、そんな商品を探して、お店に並べるようにしています。



香川県高松市生まれ。祖母が郷土料理の教室を開いていたこともあり、幼い頃よりお手伝いを通して料理に親しむ。  
 23歳で結婚。30歳で仕事を辞め、専業主婦となる。  
 1984年予想もしない偶然により奈良市内にカフェ「くるみの木」を開店。自然のものを活かしたおしゃれなカフェなど、  
 オーナー自らが選んだばかりの品を扱う雑貨店は、全国からお客様が訪れる人気店として成長。  
 2004年には1,000坪の敷地にゲストハウス、レストラン、ギャラリー、雑貨店からなる「秋篠の森」をオープン。  
 石村氏が選ぶ商品は幅広い世代から高く支持されており、  
 期間限定で百貨店に開設される雑貨店は、多くのお客様が訪れる人気企画となっている。  
 百貨店でのウィンドウディスプレイなども手掛けるほか、地方での企業支援活動や著作活動などにも力を注いでいる。

今回は、奈良市内にある人気カフェ店「くるみの木」や雑貨店、レストラン、ゲストハウスなどを経営し、百貨店での期間限定ショップの運営やウィンドウディスプレイなどでも活躍されている石村由起子さんをお招きし、講演していただきました。石村さんは手がけるお店や雑貨は幅広い世代から支持され、遠方からもお客様が訪れる人気ぶりです。このようなお店づくりにはどのような秘密が隠されているのでしょうか。

## 偶然から始まった24年間

私は23歳で結婚しましたが、夫とは30歳までは仕事を続けさせてもらう約束をしていました。そして約束どおり30歳で仕事を辞め、専業主婦の生活を始めたある日、いつも通っている道にきれいなアジサイの花が咲いているのを見つけました。もともと植物が好きだった私は、その花を挿し木で育てたくて、建物から出てきた女性に花を分けてもらいました。そして、その女性がアジサイの花を切ってくれているときに、ふと何気なくその建物をみて、「こんなところでお茶を飲めたり、雑貨が買えたりしたら素敵ですね」と呟いたのがすべての始まりでした。

その建物は電力会社の事務所として使われていたので、夏には出でいくことが決まっていたようでした。その女性は、私にどんな店にしたいのかを詳しく聞いてきたので、ついつい思いつくままに話をしてしまいました。それを聞いた女性は、私を大家さんのところへ連れて行き、その建物を私に貸すように頼み始めたのです。しかし、大家さんは「貸したくない」と言いました。私にはもともとお店を開く計画などなかったのですが、その一言を聞いたときに私の中のスイッチが入り、自分が開きたい理想のお店のイメージ

ジを大家さんに力説していました。当然、夫はこのことを何も知りません。すぐに夫に電話し、仕事の帰りに寄ってほしいところがあることを伝えました。そして、夫が反対したら諦めようとも思っていました。仕事から戻った夫を駅まで迎えに行き、そのことを話すと、やはり怒り出しました。ただ、どちらにしても一度大家さんに会ってほしいと頼み、一緒に大家さんのところまで行きました。そうすると、大家さんはやはり「貸したくない」の一点張りです。それを聞いて、今度は主人のスイッチが入り「この人は最後までやり遂げる人だからぜひ貸してあげて欲しい」と大家さんを説得し始めたのです。2人で説得して、やっと貸してもらえることになりましたが、今から考えると、なんて無謀なことをしたのかと思います。ただ、あのときアジサイの花をもらって、そのまま「ありがとうございます」と帰っていたら、今のお店はなかったことでしょう。あの日から、「くるみの木」の24年間が始まったのです。

## お店を育てる、人を育てる

開店から数年は、お客様も少なく、本当に悲しい思いをしました。色々な葛藤の中で、お客様に喜んでもらえる良いお店にしたいとの思いで頑張っていました。開店から24年が経った今、お店は成長し、スタッフも増えました。私にとってスタッフは本当に愛おしい存在です。今の私はスタッフの良いところを探すようにしています。人を雇っていると、ついその人のダメなところばかりに目がいってしまいます。しかし、大家さんは「貸したくない」と言いました。私にはもともとお店を開く計画などなかったのですが、その一言を聞いたときに私の中のスイッチが入り、自分が開きたい理想のお店にな

っています。

お客様に心地良く過ごしていただける空間を作るためには、その裏にスタッフの大変な努力があります。また、表には裏があるように、物事にはすべて土台があります。土台がしっかりしていないのに柱を立てれば、いつかその柱は崩れてしまいます。そうなれば、それまでにせっかく築き上げたものと一緒に崩れます。そうならなければ、自分自身の土台作りが大切であることをスタッフに伝えています。

自分達にとって良い店を作るのはなくて、お客様にとって良い店を作ることが大切です。自分達の効率を優先するのではなく、お客様の



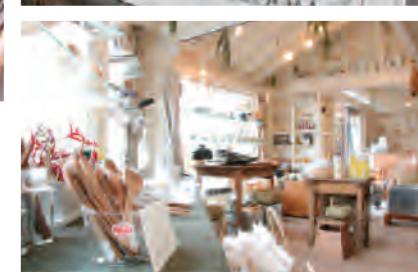
ことを第一に考えて仕事をするように心がけています。

## 「物」の後ろにいる「人」が大切です

私がお店に並べる商品は、必ず自分で買って、実際に使って確かめてからお店に出すようにしています。お客様が買って帰って、あとでがっかりして欲しくないです。

また、私が商品を扱うときは、できるだけ現地まで行って、作っている人に会うことになっています。「物」の後ろには必ず「人」がいて、その人に会わない限り、その物自身が見えてこないです。例えば、奈良の吉野の山奥で、栗の木を使った木杓子を作っているおじいさんのところへも行きました。周りには何もない山奥で、腱鞘炎になられたのか腕にいっぱいのテープを巻きながら一人で作業しておられました。おじいさんが作った木杓子が素晴らしいのは当然ですが、その姿を見て、どうしてもこの人が作ったものを売りたい、みんなに買って欲しいと思うようになります。

商品を買っていただくことによって、お客様が喜び、生産者が喜び、そして私のお店も喜ぶ、私はそんな商品を探てきて、お店に並べるようにしています。



石村さんが作り出す心地よい空間が広がるカフェ「くるみの木」  
 (一条店:奈良市法蓮町567-1 TEL:0742-23-8286)

## これから予定

### KOSAKA 大学院人間科学研究科人間栄養学専攻公開講演会 「笑いと遺伝子」

日 時：2月21日(土)14:00～15:30

講 師：村上 和雄氏(筑波大学名誉教授)

受講料：無料／お申し込み：必要

### 第11回樟蔭ファッションセミナー

#### 「セラピーメイクを考えるミニシンポ 口唇口蓋裂をめぐって」(仮称)

日 時：3月28日(土)13:30～16:30

講 師：タミー 木村氏(本学被服学科教授)

楠本 健司氏(関西医科大学形成外科学講座教授)

日比野 英子氏(神戸親和女子大学発達教育学部心理学科教授)

受講料：無料／お申し込み：必要

上記各講座は小阪キャンパス内にて開催いたします。

各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記のうえ、お申し込みください。

〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(小阪キャンパス)

TEL:06-6723-8237 FAX:06-6723-8348

E-Mail:gakujuyutsu@osaka-shoin.ac.jp

※上記の各催しには駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

### SEKIKI 教養教育主催コンサート

#### 「日比浩一・鈴木華重子コンサート」

日 時：1月31日(土)14:00～15:30

出演者：日比 浩一氏(バイオリン奏者)

鈴木 華重子氏(ピアニスト)

受講料：無料／お申し込み：必要／申し込み締切：1月29日(木)

キッズルーム：有り(無料：要申込)【キッズルーム申し込み締切：1月27日(火)】

上記講座は関屋キャンパス内にて開催いたします。

参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④コンサート参加希望を明記のうえ、お申し込みください。

〒639-0298 香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(関屋キャンパス)

TEL:0745-71-3168 FAX:0745-71-3141

E-Mail:s-gakujuyutsu@osaka-shoin.ac.jp

上記の講座はHPからもお申し込みいただけます。http://www.osaka-shoin.ac.jp



【きたむらひでこ】

大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科教授  
関西大学大学院文学研究科博士課程国文学専攻単位取得満期退学。文学修士。  
1969~76年関西大学大学院研修員、80~81年西山短期大学専任講師、  
81~84年大阪樟蔭女子大学専任講師、84~99年同助教授、99年~現在同教授

## 「かるた」100組を作製し、日本文化が芽生えた平安時代を学ぶ

「歌かるた」「源氏かるた」と聞けば、現役学生はもちろんのこと、卒業生も懐かしく思い出すのではないでしょうか。毎年、学園祭で展示され人気を呼び、新聞や雑誌などでもよく取り上げられていたこの「かるた」は、学生一人ひとりが手作りした、世界に一つだけの作品です。今回は、「古典を学ぶことは、日本の言葉や文化の原点を知ること。『かるた』づくりは、その古典を深く理解し、楽しく学ぶための工夫です」という国文学科の北村英子教授にお話をお聞きしました。

### 日本の文化のルーツ 平安時代を学ぶ

中国の影響を脱して、日本独自の文化が花開いたのは平安時代です。たとえば、奈良時代に成立したとされる万葉集の文字はすべて漢字です。文字を持たなかった昔の人が、中国の漢字を借りることで、当時の歌を書き残すことができたのですが、まだひらがながなく、すべて中国から伝わった漢字で書かれていました。しかし、平安時代になると“かな”が発明され、現在の日本語表記のもとになる書き方が広まりました。それとともに紫式部や清少納言など、女性たちの華やかな活躍が始まるのです。文字だけではありません。裳・唐衣(十二单)に代表される、日本独特の着物文化も平安時代に始まります。その後の紋付も、当時の着物が柄として紋を使ったことに始まります。日本文化のルーツである平安時代を学ぶことは、今に暮らす私たちの生活の祖形を知ることであり、その知識は日本人として生きることの喜びや楽しさを深めてくれます。

### 「かるた」づくりは古典を深く理解し、楽しく学ぶ工夫

とはいっても、古典の文章は現代の若い人にはとっつきにくいのも事実です。そこで、古典を楽しく、面白く勉強する工夫はないかと考え始めたのが、授業に「かるた」作りを取り入れることでした。

2回生から始まるゼミでは、1年を通じて源氏



物語や伊勢物語、枕草子、更級日記などを学びます。その作品の中から、テーマを決めてテーマにそった100の項目を選び出し、「かるた」をつくり、同時にその項目ごとに解説の文章を書くことを課題にしたのです。もともと感じていたことですが、樟蔭では操作教育を重視しているからか、学生たちは

心が豊かで、美術や創作活動に優れた能力を發揮する傾向があります。「かるた」作りは、文字で書かれている「古典文学」を絵や図で表すことで、表面的な字面でのみ理解するではなく、登場するものの形状・環境・文化などを詳しく調べる必要があります。結果、古典をあらゆる角度から総合的に、理解を深めることができます。

たとえば源氏物語の「かるた」では、物語に出てくる衣装、花、行事などから一つのテーマに絞ります。もし衣装を選んだなら、唐衣、袴など100種の衣装名を選び出し、一つひとつ自分で調べて図を描き、解説文を付けます。参考にするのは、大学が所蔵している国宝源氏物語絵巻のレプリカをはじめとする絵巻やその他の絵、図典、

辞書やビデオなどの資料や、学生自身が図書館などで探した資料です。

ユニークな例では、源氏物語に表れる建築物に注目した学生もいます。清涼殿や後涼殿の図面を描いて解説し、さらには掛けはずしのできる板の橋である打橋までも項目に取り上げ、建築学科の学生の作品のような

面白い「かるた」もあります。

### テストやレポートではわからない 隠れた才能があらわれる

「かるた」と総称していますが、木製の羽子板に描いたり、掛け軸にしたり、貝合せにしたり、学生たちはさまざまに工夫しながら、美しい作品を作ります。なかには「美術大学の卒業制作ですか」などといわれるほど、素晴らしい出来栄えのものもあり、東大阪市の姉妹都市協会を通じて世界各国の姉妹都市に贈られたりしています。これまでアメリカ、ドイツ、カナダ、オーストラリアなど、多くの国との国際親善に一役買っています。

高校時代は美大に進学するつもりだったけれど、大学祭の展示で先輩の作品を見て、「自分が描きたい古典の時代をしっかりと知るには、このゼミで学ばなければ」と国文学科を選んだ学生もいます。彼女は卒業後、万葉文化館が主催する「奈良県万葉日本画大賞」にたびたび入選し、新進の日本画家として大いに注目をされています。

また大学祭で作品を見た企業の方から、「ゼ

ひ当社に来てください」と就職のきっかけになったこともあります。作品を通じて、豊かな感性、優れた美的感覚、そして一人で100組もの「かるた」を作り上げた粘り強さが、評価されたものと思われます。実際に、ペーパーのテストやレポートではわからない学生の隠れた才能を知ることができて、驚くこともしばしばです。ただし、この課題の学習的な狙いは、あくまで古典が成立した時代の社会を深く知り、確かな時代考証を行うことで作品への理解を深めることです。ですから、描かれた図が正しかか、解説はきちんとされているかが評価の対象であり、美術的な要素は評価点にはあまり加えません。どれだけ美しく作られた作品でも、脚色したものや原文に忠実でないものは、評価しません。図をどうしても描けないという学生は、解説のみのレポートでの提出も可能ですが、ほとんどの学生は「かるた」を作ります。一つひとつ調べて作りながら一つの間にか熱中して、古典の時代に思いを馳せ、学んでいる作品をより深く理解しているようです。



枕草子の植物、源氏物語の建築物など学生が絵かるたに取り上げるテーマはさまざま。

### 古典で学んだことは 心を豊かにしてくれる

私自身が古典に本格的に親しむようになったのは、大阪樟蔭女子大学の国文学科に入学してからですが、幼い頃から本を読むのは大好きでした。小説も読みましたが、実は伝記が愛読書で、とくにキュリー夫人伝がお気に入りで、将来は研究者になることを考えました。もうひとつ、伯父の仕事である弁護士も憧れの職業でした。ただ、伯父に相談したところ、内気な私の性格を見抜いてか「やめたほうがいいよ」と言われ、こちらは断念。化学研究のキュリー夫人とは畠が違いますが、国文学の研究者になることを目標に据えました。

本学での学生時代はのびのびと勉強をしたのですが、大変だったのは関西大学の大学院に進んでからでした。少人数での修士課程の研究室では、毎日寝る間を惜しんで勉強しないと、授業についていけないほどでした。

この時のテーマが「万葉集の表記について」で、中国より伝わった「音」読みしかなかった漢字に、この頃初めて「訓」読みができ、中国漢字と日本漢字が織り交ぜて使われていることが大変興味深く、熱心に研究しました。実はこの頃は、恋愛ものである源氏物語にあまり興味がなかったのですが、物語の中に描かれた当時の様子の緻密な描写が素晴らしい歴史的資料であると思い至り、源氏物語も研究対象となりました。

現在、「かるた」を作りながら古典の世界に興味を深めている学生たちに、研究者になりなさいとは言いません。しかし、古典を学んで身に付けた知識や想像力は、皆さんの考え方や感じ方を、より豊かにしてくれることは間違いないと信じています。



## 大阪最古の歴史を持つ重要文化財の幼稚園で 子どもたちを慈しみ見守る、優しい園長先生

大阪市立愛珠幼稚園の開園は、1880（明治13）年。今年で129年目を迎えた、大阪でいちばん古い歴史を持ち、日本全国でも3番目に古い幼稚園である。児童学科を卒業し、大阪市立の幼稚園で経験を重ねた松村紀代子さんは、現在その愛珠幼稚園の園長。今回は松村さんに愛珠幼稚園のこと、仕事のこと、そして樟蔭の思い出をお聞きしました。



### 松村紀代子

まつむら・きよこ  
大阪市立愛珠幼稚園園長

島根県出身  
1972年 大阪樟蔭女子大学 児童学科卒業。  
小さい子どもの教育に携わりたいと思い、  
高校時代には幼稚園の先生になろうと決心。  
その後、大阪樟蔭女子大学児童学科に入学。  
学生時代は学業に励む一方、  
児童文化研究部で人形劇や影絵などに取り組み、  
その頃の部活仲間とは、今でも交流があるという。  
卒業後は大阪市教育委員会に採用され、  
長年、大阪市立の幼稚園教諭として活躍。  
現在は明治時代からの長い歴史をもつ  
大阪市立愛珠幼稚園の園長を務める。  
木造の園舎は国の重要文化財となり、  
年2回、一般公開も行われている。  
松村さんは「たくさんの方々の想いが  
いっぱい詰まったこの園舎を大切に使って、  
次に伝えていきたい」と言う。



#### オフィスビルに囲まれながら 100年以上前から建つ園舎

愛珠幼稚園の園舎は、隣に囲まれた、一見するとお寺のような木造の建物。建てられたのは、108年前の1901（明治34）年である。大阪市の有形文化財を経て、一昨年には国的重要文化財に指定された。しかもこの園舎はバリバリの現役。格天井の遊戯室では園児たちの歌声が響き、瓦屋根に囲まれた園庭では、元気に一輪車を乗り回している。

松村紀代子さんは、児童学科20期の卒業で一昨年4月からは愛珠幼稚園の園長を務めている。現在の園児数は、3歳児から5歳児ま

で合わせて73名。3歳での入園希望が多いのだが、市の規定で20名に抑えている。「それでもどうしてもここに入れたいからと、4歳から入園する子どももいます。親も、その親も、さらにその前の親も愛珠幼稚園に通っていたという方もいらして、本当に地域に根付いている幼稚園です。100年以上建物も同じですから、卒園生の愛着もひとしお。毎年6月に行われる同窓会はホテルなどでは開かず、必ずこの園に集まって行っています」北船場の連合町会が設立した幼稚園だけに、周囲をオフィスビルに囲まれた今も、この幼稚園の中だけは、ゆったりとした空間に、幼児のための時間が流れている。



幼稚園には珍しい和室。この和室で園児は「お茶遊び」を楽しめます。



100年前に購入されたイルムラー製(ドイツ)のグランドピアノ。今も保育やコンサートに使用されています。

#### 寮生活と部活動には 楽しい思い出がたくさん

松村さんのふるさとは島根県である。

「3人きょうだいの末っ子でした。子供の頃から、幼い子の面倒を見るのが好きだったことから、将来は子どもにかかわる仕事をしようと早くから決めていました。体育の先生もいいなと思いましたが、やっぱりもっと小さい子の教育に携わりたいと、高校時代には幼稚園の先生になろうと決心していました。母も姉も樟蔭を卒業していたので、ごく自然と大学は樟蔭に決めました」

1970年頃はまだ、若い女性がひとりで住むのは感心されない時代もあり、遠方からやってきた学生の多くは、大学の寮に入った。

「当時は、東、西、南、北の4つの寮に加え、さらに乾、壬 寮もあって、たくさんの学生が生活していました。私が入った東寮は3人部屋が15部屋ほどあり、入寮者は約40人。畳敷きに、引出しがふたつの座り机が置かれ、椅子はなし。ベッドではなく、押入れから布団を出して3組敷いたら、もう足の踏み場もありませんでした」

寮は集団生活だから、当然きちんとした規律が求められる。朝7時になると当番が鐘を鳴らして起床時間を知らせ、掃除を済ませてから、全員廊下に並んで点呼をとる。寮内の一室で生活されていた寮監先生の朝のあいさつを聞いてから朝食になる。

「夜の門限は9時でした。外出などで遅くなる時は、前もって報告をしなければなりません。そして門限時間後は、部屋の行き来も禁止になります。とはいって、そっと足音を立てないようにして、こっそりと仲のいい友達の部屋を訪ね、夜遅くまで語り合ったものです。なんといっても、同年代のおしゃべりできる相手が常にそばに

いるので、寮生活は楽しい日々でした」

児童文化研究部に在籍し人形劇などに、熱

心に取り組んだ。

「幼稚園の先生になるのに役に立つかな、と思いつて入部したのですが、やってみると人形劇は奥が深く、とりこになってしましました。影絵や破り物の劇もしました。人前で恥ずかしがらずに演じる度胸をつけるために、樺原神宮や京都の植物園に出かけて踊ったり歌ったりのスタンツをやったのもいい思い出です。部活動の仲間とは、今でも交流があります」

#### 出会いはいつも学びの場

幼稚園教諭を目指して、学業にも励んだ。

「幼稚園の先生になるには、理論の勉強とともに実技も重要で、特にピアノの実技は欠かせないものです。子どもの歌を集めた楽譜集のどこでも開いたページの曲を即弾けるように、寮や部活動の友達と誘い合わせて大学の音楽室へ行き、夜遅くまで練習したこともあります」

ゼミの教授は、ドイツの幼児教育家フレーベルの研究をしていた大橋岑吉先生。

「愛珠幼稚園の草創期には、東京女子師範学校附属幼稚園から学んだフレーベルの理論を取り入れた幼稚園教育をしていました。私は卒論で絵本の研究をしたくて大橋先生のゼミを選んだのですが、今になってもっとフレーベルの勉強もしておけばよかったと思います」

卒業後は、大阪市教育委員会に採用され、市内の数ヶ所の市立幼稚園で教諭、園長を務めてきた。

「私にも子どもが二人います。子どもは集団の中で育てるのがよいと思い、保育園に預け、仕事に復帰しました。自分の子どもを育てながら、0歳から3歳までの子どもたちの発達について、幼稚園ではわからなかったことを実体験で学ぶことができ、その後の自分の仕事に活かすことができました」

自分の子育てを通じて、保育園の先生と交流できたことも、いろいろとプラスになった。いい歌を教えていたり、楽譜を借りたりして教材の研究に役立てた。

「幼稚園は、子どもたちが最初の集団生活をする場所。そこには、教科書がないので、先生の工夫次第で、楽しい教育ができます。こんなやりがいのある仕事にかかわることは、人生の大きな喜びです。『愛珠』の園名は、『主人花を愛すること、珠を愛するが如し』という袁士元の漢詩から選ばれたもので、幼な子も掌中の珠として愛するという意味です。時代が変わっても、慈しみながら子どもの心を育てるという幼児教育の基本は変わりません。子どもたちには、いろいろな人とかかわる中で、大切にされているということに感謝する気持ちをもち、さまざまなものや自然にたっぷりとふれて、心豊かに育ってほしいと思います」

松村さんは、園長になった時から、毎月のお誕生日会で、自ら簡単なペーパーサーツやパネルシアターなどをして園児たち一人ひとりに語りかけて、直接的なかかわりを持つようにしている。そして、愛珠幼稚園で出会った『あたたかなひかりにあてて きよらかな水をそいで』（竹中 郁）の詩を胸に、いつも子どもたちの健やかな成長を願っている。

#### 卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報を寄せいただき、みなさまのお力を借りて、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園法人本部企画広報室までお知らせくださいますよう、お願いいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263